

接続期教育研修（第1回）

受講者数 304名

配信期間 令和4年4月19日（火）～5月20日（金） オンデマンド研修

講師 第一部 日本体育大学 児童スポーツ教育学部 児童スポーツ教育学科 教授 齊藤 多江子 氏  
第二部 中村 健太郎 氏（元教育指導課指導主事）**【内 容】**

第一部：幼児教育から小学校教育段階における子どもの発達や学びの連続性について学びを深めます。

第二部：小学校入学期におけるスタートカリキュラムについて学びを深めます。

**【受講者の感想】****\* 研修で学んだことを教育・保育にどう活かしていきますか****<小学校>**

- ・幼児期の自発的な遊びを通して育まれてきたことを、生活科を中心に指導の工夫や指導計画を作成して、育んでいくことを意識して教育活動に取り組んでいこうと思う。
- ・幼稚園・保育園で行われている経験の中から自然と学びを得る無自覚な学びから、小学校で行われる教科カリキュラムから身につける学びへの変化が大きいということを理解し、児童に関わっていく。
- ・スタートカリキュラム（週案簿）はとても細分化されていて指導する際に役に立つと感じたので参考にしていきたい。
- ・あだち幼保小接続期カリキュラムの「10+4の姿」の「自分で考える・決める・行動する」姿を育てることが、生きる力を育てることにつながるので意識して指導していこうと思う。
- ・生活科を中心とした合科的な指導を心がけていきたい。

**<就学前施設>**

- ・幼児期の終わりまでに育てて欲しい10の姿は「子ども自身ができているか」ではなく、保育者がより子どもたちをどう育てていけばよいかの手立てにする。振り返りの視点で見ていくことが大切だと学んだ。
- ・幼児教育から小学校教育へ移行する際のギャップを見ると、子どもたちにとっては大きいものなのだと感じたが、園でそのために何かをさせるのではなく、子どもたちに関わる大人が接続期について理解し、意識してどう育てたいかと考えていく。
- ・小学校入学期におけるスタートカリキュラムについては、とても具体的に書かれており、分かりやすかった。小学校に向けての指導について活用していきたい。
- ・コロナ禍で幼保小の交流活動ができていないことに目を向けがちであったが、交流することを目的とせず、円滑に接続が進むために何が必要であるかを育ちの連続性と捉えて、園全体の取り組みとしていくことが重要であると感じた。
- ・就学前の施設での経験が小学校以降での生活や学習基盤につながることを5歳児の担任は強く意識するが、他クラス担任はその意識が希薄に感じられることが度々ある。職員間での育ちの共有を丁寧に実践していきたい。